

様式1

令和7年度 学校評価

学校教育目標	自立貢献 ～自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成～	
a ミッション	小中連携教育を基盤とした確かな学力の育成	a ビジョン ・向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。 ・規範意識を身に付け、自他を大切にしている生徒を育成する。 ・自己を認識し、将来の夢や目標を立て、その達成に向けて計画ができる生徒を育成する。

尾道市立美木中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画					
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案		
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ				
確かな学力の育成 向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。	豊かな関わり合いのある授業を創造し、生徒の思考力・表現力を育成する。	・授業研究を行い、学び合いを充実させる。  ・各教科・各領域において、学習目標達成を見取る手立てとして、学び合いの場を設定し、思考力・表現力を育成する。	1人1回、学び合いのある授業提案を行い、その後の研修で検証を行う。	100%	100%	100%	100%	A	【成果】 ・12月の授業公開に向けて、2学期に2回5教科の研究授業を行った。それぞれの授業で研究授業に向けて、事前検討や教科を超えて授業の検討を行うことができた。また、模擬授業などを行う中で、生徒の思考を深める学び合い活動について検討することができた。 【課題】 ・授業後の検証で、生徒が主体的に学ぶ姿は見られなかった。「話し合い」と「学び合い」の境界が曖昧で、授業の改善策について検討を深めることができなかった。	3			○前回と同じく達成度が高いことはとてもいいことだと思えます。 ○話し合いサポートシートの積極的な活用を行い、表現力を育成させている。	・授業検討の際に、生徒が「学び合い」を行っている姿についても検討を行い、具体的にどのような姿を目指すかについて共有する。		
				85%	84%	81%	95%	B							【成果】 ・すべての教科で生徒同士が意見を交流する場面や意見を練り合う活動を行うことで、生徒が自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。 【課題】 ・生徒同士が意見を交流する場面や意見を練り合う場面は確保できているが、話し合いの中で生徒が自分の考えを深めたり、広げたりすることが十分にできていない。	○前回と比べ達成度が上がっている項目があり、改善が見られたと思えます。 ○学習時間を増やすこと、規則正しい生活を送ることは生徒の意識次第で大きく改善されると思っています。 ○家庭時間の確保については、保護者の意識が重要である。保護者との連携を密に行う必要がある。
豊かな心と健やかな体の育成 自己を認識し、自分の将来の夢や目標を持つことができる生徒を育成する。	リーダーの育成と、お互いを認め合える集団づくりを進める。  生徒に三点固定(起きる時間、家庭学習時間、寝る時間)をさせ、基本的な生活習慣を確立する。	・生徒リーダーを中心として学校行事や地域行事への積極的な参加を行う中で、生徒の自己肯定感と自己有用感を高める。  ・デイレイフによって生徒の起床時間、家庭学習時間、就寝時間を確認し、担任や学年の教員を中心にサポートを行う。また、課題のある生徒に対しては定期的に生活習慣を振り返らせ、規則正しい生活を送ることへの意識を高める。	学校評価生徒アンケート「自分には良いところがあると思う。」「自分の良さを周囲の人に認められていると思う。」に肯定的に回答する生徒の割合	60%	65%	73%	122%	A	【成果】 ・目標値を達成することができた。職場体験活動、音楽コンクール、文化発表会など様々な行事を通して、生徒が主体となり、生徒のリーダー性を育成することができた。また、各役割を責任をもって果たす中で、自己有用感を高めることができた。 【課題】 ・目標値を達成できた一方で、否定的に回答する生徒の割合が約1/4あることが課題として上げられる。	3			○前回と比べ達成度が上がっている項目があり、改善が見られたと思えます。 ○学習時間を増やすこと、規則正しい生活を送ることは生徒の意識次第で大きく改善されると思っています。 ○家庭時間の確保については、保護者の意識が重要である。保護者との連携を密に行う必要がある。	・ピア・サポートタイムを中心とした人間関係作りで、生徒同士が互いの思いを認め合えるようしていくとともに、生徒間でサポートができるような環境作りを継続して進めていく。  ・日々の生徒会活動(委員会活動)を活性化し、リーダーの育成を図る。		
			学校評価生徒アンケート「起きる時刻と寝る時刻を決めて、毎日それを守って規則正しい生活をしている。」に肯定的に回答する生徒の割合	70%	74%	72%	103%	A							【成果】 ・目標値を達成することができた。デイレイフの記録や個人面談などを中心に生徒の生活状況を把握し指導に繋げることができ、生活習慣の定着を図ることができた。 【課題】 ・目標値を達成できているものの、達成値は前回より下がっており、SNSやゲームによる生活習慣の乱れが心配である。	・生徒委員会を中心として、学習時間調査・メディア使用時間調査等を行う。これを通して、自分の学習状況を客観的に振り返れるようにしていく。
			学校評価生徒アンケート「学年で定められた家庭学習時間を達成することができている。」に肯定的に回答する生徒の割合	70%	43%	50%	71%	C							【成果】 ・前回よりも達成値を上げることができた。学習委員会が学習時間調査を定期的に実施し、生徒の学習への意識を高めることができた。 【課題】 ・前回よりも達成値は上昇したが、半数の生徒が目標値には達していない現状がある。	・SNSやゲームなどメディアへの関わり方を考える機会(生徒への啓発活動)を定期的に設けていく。  ・生徒会の調査やデイレイフの記録を基に、面談などを通して、適切に支援を行っている。
学校における働き方改革 教職員が、本校に勤務したと思える環境を実現する。	教職員一人一人の業務改善の意識を高め、担当業務の適正化に取り組む。	・毎月の学校経営会議で行事の精選や、スクラップ&ビルド、業務分担の見直しや、進度調整等を行う。  ・毎月の衛生懇話会で、全教職員の時間外勤務時間を分析し、勤務時間の長い教職員への取組を話し合う。	働き方改革アンケート「生徒と向き合う時間が確保されている」に肯定的に回答する教職員の割合(令和6年6月本校80%)	82%	100%	93%	113%	A	【成果】 ・生徒指導等業務に係る対応が組織的な対応として定着しつつあるとともに、スクールカウンセラーなどの専門的視点を活かす生徒一人一人の個性に合わせた対応に努めることができていた。 【課題】 ・生徒との向き合う時間は確保されているが、担任によっては積極的な情報をより発信し、組織対応を図る必要がある。	3			○教職員の時間外勤務月45時間以下の割合の達成値が前回より大幅に上がっており、改善されたことが分かります。 ○特定の教職員による時間外勤務が多い点については、役割分担によるものなのか、その個人によるものなのか、原因をよく調査する必要がある。	・生徒と向き合う時間の中で教育相談体制の構築により、生徒からのSOS等の相談が可能となるシステムを養育課と連携し構築する。		
			「時間外勤務時間月45時間以下の教職員の割合」(令和6年6月市中学校平均33%)	50%	25.6%	50.90%	102%	A							【成果】 ・分室内における役割分担の実施及び各主任が進捗状況を把握しサポートする体制づくりの構築につながっている。 【課題】 ・特定の職員による時間外勤務時間が目標値より多い状況がある。	・各職員に見通しを持った職務の遂行となるよう更なる役割分担等による協働を進めていく。

【自己評価 評価】  
A: 100% (目標達成)  
B: 80% (ほぼ達成) < 100  
C: 60% (もう少し) < 80  
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。